

# 最高に

## 楽しかった夏

北伊予中学校

益田 有里子

期待とともに乗った飛行機の先に待っていたものは、アメリカンライフとホストファミリーでした。私のホストファミリーは、両親と2人姉妹の4人家族で、みんな明るい人でした。

ホストマザーの「Wake up」で起きていました。高速道路を使った通学もなかなか大変でした。スタディーセンターでは、地域見学、ボランティア、遠足など、いろいろな所に行っていて、聞いての充実した毎日でした。地域見学では、近所のスーパーマーケットへ行きました。近所といっても、30分歩いてやっと着くような遠い所でした。スタディーセンターの生活の中では、ボランティアと遠足が深く心に残っています。私たちの行った老人ホームには日系の方もおられ、日本人形などがあってびっくりしました。出し物をした後ビンゴゲームをしました。一緒に楽しんだ方は、片言の日本語（数字を数えられる程度）を話す方で、英語も通じやすく、ジェスチャーなしでも話

せました。遠足では、「Ancil Hofmann Park」へ行きました。キックベースボールをしましたが、相手チームを10点以上はなして圧勝でした。そして大自然の中で食べた弁当も格別でした。いよいよ迎えのバスが来た日、やはり別れは辛いものでした。約一週間本当にお世話になりました。いろいろなことをしていただきました。バスで市内見学の後、最初に行ったホテルで泊まりました。15日間の、サンフランシスコとサクラメントを行ったり来たりする旅でした。この旅を支えてくれた両親、15日を一緒に過ごした仲間、すべての人への感謝を忘れて、これからの生活に生かしていきたいです。そして、大人になったら、ホストファミリーに会いに行きたいと思っています。



▲ホストファミリーといっしょに



# 素晴らしい国

## アメリカへ

岡田中学校

西山 芽美

行ったこともないアメリカへ期待と不安を抱き、出発したのは7月27日（土）でした。

着いてすぐは、日本じゃないと思うだけで緊張したけれど、2、3日すればその緊張はだいぶほぐれました。それは、アメリカの人たちが温かく迎えてくれたことや、30人の仲間がいてくれたからです。着いてから3日後の7月30日（火）、ついにホームステイが始まりました。待っていたのは father. mother. sister 2人 と brother の5人でした。お父さんは家事をよく手伝い、お母さんは元気で優しく、お姉さん2人は私たちの英語を少しでも理解しようとして、辞書を買ってきてくれたりするととても親切な人たちでした。そして、7歳の弟は、元気のいい、ポケモンが大好きな男の子でした。

次の日からは、スタディーセンターでの英語研修が始まりました。内容は、英語で自己紹介をしたり、スピーチにショッピングをしたり、ゲームをしたりすることでした。始

めは先生の言うことが聞きとれなくて大変だったけれど、先生と私たちがお互いに理解しようと努力した結果、少しずつ理解できるようになっていきました。ゲームを交えての授業はとても楽しくて、それまでの不安が一気になくなりました。研修で出された宿題も mother に手伝ってもらったおかげで、よく理解できたし、Family との交流を深めるいいチャンスにもなりました。

この海外派遣を通じて、いろいろなことを知り、学び、体験し、素晴らしい経験ができたと思います。この旅で出会ったすべての人、そして、こんな貴重な体験をさせてくださった方々には、本当に感謝しています。

いつかまたアメリカに行きたいと強く思っています。  
「Thank you very much.」



▲私の大好きなホストファミリーといっしょに